



清洲城

尾張の首府が甦る

“歴史織りなす清須のお城”

室町時代応永12年(1405)、尾張国の守護職であった斯波義重が、守護所であった下津城(稲沢市)の別郭として建てられたのが清須城の始まりといわれています。

文明8年(1476)戦乱により下津城が焼失した後の、文明10年(1478)守護所が清須に移転することで、清須が尾張国の中心地となります。京や鎌倉に連絡する往還と伊勢街道が合流する交通の要衝でもあり、尾張の政治・経済・司法の中心地として繁栄を迎えます。

弘治元年(1555)に織田信長公が那古野城なごやじょうから入城、尾張を統一掌握したころの清須城の基本構造は、守護の館と同じだったと考えられています。永禄3年(1560)の桶狭間の戦いに勝利した信長公は、ここ清須から天下統一への第一歩を踏み出しました。

天下統一へ突き進む途上、本能寺の変で斃れた信長公の跡目を決める清須会議の後、城主となった次男、信雄によって改修された清須城の城郭は、天守を備え東西1.6km、南北2.8kmにも及ぶ巨大な郭域の中に城下町のあらゆる機能を備えた城塞都市として過去最大の規模に達します。

その後城主は、織田家から豊臣秀次(関白)、福島正則(秀吉子飼の大名)と移り、天下分け目の関ヶ原の戦いでは、東軍の最前線の城として重要な軍事拠点となります。関ヶ原以後、城の主は松平忠吉(家康四男)、徳川義直(家康九男)と変遷しますが、この頃の清須城下は、人口6万人を数える賑わいを見せ、朝鮮通信使の記録にも「関東の巨鎮」と称され、また、清須城は「天下の名城」と讃えられました。

慶長15年(1610)徳川家康は、清須城廃城と名古屋城築城を命じ、町の建物、町の機能全てが移転する「清須越」が行われました。これより尾張の政治・経済・司法の中心は清須から名古屋へ移り、清須城とともにその城下町は歴史から姿を消し去りました。なお、名古屋城築城に際し取り壊した清須城の資材が再利用され、特に名古屋城御深井丸おふけまるの西北隅櫓は、「清須(洲)櫓」とも呼ばれ清須城天守の古材でつくられたといわれます。

平成元年(1989)、四百年近くの年月を経て歴史ある城が「清洲城」として天主閣をはじめ、芸能文化館、清洲城広場などをしたがい地域のシンボル、平成のお城として甦りました。

◆「天主」と「きよす」の表記について◆

- 慶長15年(1610)の「清須越」以前に登場する地名、施設としての名称は「清須」「清須城」「天守閣」と表記。
- 「清須越」以降から平成17年(2005)清須市誕生以前の宿名、村名、町名は「清洲」と表記。
- 当施設の名称として使用する場合「清洲城」「天主閣」と表記。

清洲城天主閣

郷土の英傑・織田信長公の天下取りの出発点であり、戦国の世を終結させ天下平定を目指す武将が重要拠点としていた清須城。平成元年に現在の場所に『清洲城』として再建整備されました。金色に輝く鯉を屋根にいただく『清洲城天主閣』は、御殿の内部に「黒木書院」「芸能の間」を配した『芸能文化館』、五条川に架かる赤い『大手橋』とともに、清須市のシンボルとなっています。



清洲城再建のあゆみ

清須からくり
望遠鏡



【天主閣4階】

清須の天主で 浩然の気を養う

最上階の4階では、「吉例の地・清須の天主に立ち、浩然の気を養う」をコンセプトに、先人たちが夢をかなえていった清須の眺望を楽しんでいただくエリアです。



【天主閣2階】

関東の巨鎮・清須の全貌を体感する

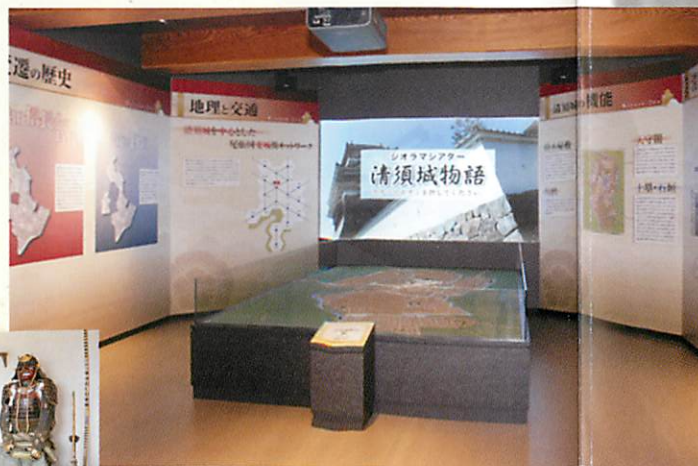
清須城を中心に「関東の巨鎮」と言われた清須城下の都市機能の全貌を知る「清須城と城下町」がテーマの展示です。戦国時代の清須城下の喧騒や信長公麾下の武将たちの暮らしなど清須の全貌を体感します。



清須城下バーチャルウォーク

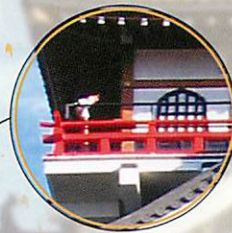


再現! 戦国武士の暮らし

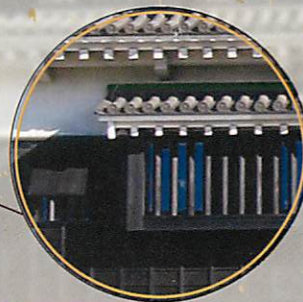


ジオラマシアター
「清須城物語」

天下一吉例

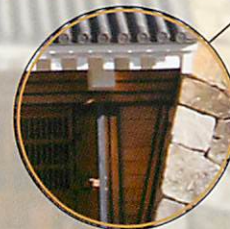


覇者たちのルーツ・清須



戦国の都・清須

プロローグ



芸能文化館 御殿

歴史と文化に親しむ市民交流の場

市民との交流を通じて、清須の歴史と文化に親しみ、楽しむための施設です。館内には、芸能の間・黒木書院・ふれあいの間があり、すべての方に親しみ楽しんでいただけます。

〈芸能の間〉

地元の伝統芸能の伝承、育成や研修などにご利用いただけます。

〈黒木書院〉

戦国体験・記念撮影コーナーで、清洲甲冑工房で製作された甲冑や、打ち掛けを着て記念撮影をお楽しみいただけます。

〈ふれあいの間〉

清須市の魅力を映像で紹介した「清須まち物語」と、きよ丸とうるんも登場するオリジナルアニメ「忍たま乱太郎、清須の元気の段」をお楽しみいただけます。



芸能文化館

清洲城広場

周囲を緑に囲まれた地域の人たちと、軽いスポーツやイベントができる屋外広場です。

遊歩道・駐車場

冠木門から清洲城にいたる290mの遊歩道にはベンチを配し、ゆったりと憩うことができます。駐車可能台数32台。

清洲公園・清洲古城跡公園

清洲城の対岸に位置する、清洲公園と清洲古城跡公園。古木と若い樹木が混ざりあった清洲公園の緑を背景に、桶狭間の方向を見据えた織田信長公の銅像がそびえ立ち、芝生が広がる広場は、安らぎの場となっています。また、清洲古城跡公園では毎年6月2日の命日に「織田信長公顕彰祭」が行われています。



織田信長公像



濃姫像



【天主閣3階】

清須が育んだ先人たちの偉業にふれる

信長公の偉業を中心に、秀吉・家康をはじめ信長公麾下の武将たちと清須との深い関わりあいを紹介し、「覇者たちのルーツ・清須」が歴史に果たした役割、功績を検証します。



大河ドラマ戦国史



火縄銃体験シアター「戦術革命 長篠・設楽原の戦い」



【天主閣1階】

清須の成り立ちと歩みを知る

朝日遺跡に代表される古代から中世、尾張国の首府であった時代を経て、「清須越」から平成17年の清須市誕生、平成21年の春日町合併にいたる清須の歴史をダイジェストでご覧ください。



清須の歴史コーナー

ご来場記念スタンプ



年 月 日

清洲城

〒452-0932
愛知県清須市朝日城屋敷1番地1
TEL (052) 409-7330

開館時間 清洲城天主閣
AM9:00～PM4:30
芸能文化館
AM9:00～PM5:00
清洲城広場内の多目的広場
日の出～PM9:00
※ただし11月から3月までは、日の出から日没まで

休館日 月曜日、年末(12/29～31)
(月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日)

入館料 大人：300円(団体：250円)
小人：150円(団体：100円)※小中学生
※団体は30名以上
※幼児無料

〈芸能文化館・清洲城広場ご利用について〉

芸能文化館(芸能の間、黒木書院)・多目的広場利用日の6カ月前から7日前までに、使用許可を管理事務所に申請し、申し込みをしてください。

	芸能文化館		清洲城広場
	芸能の間	黒木書院	多目的広場
午前(9:00～12:00)	5,000円	3,000円	無 料
午後(1:00～4:00)	5,000円	3,000円	無 料
夜間(7:00～9:00)	閉 館	閉 館	1時間につき500円

[備考] 芸能文化館の利用料は、時間割計算はいたしません。また、午前から午後にかけて連続利用する場合の利用料は、午前と午後の利用料の合算額となります。
・多目的広場の利用時間は、夜間を除き1回につき2時間とします。



〈施設概要〉



[清洲城敷地面積11,000㎡]

- 清洲城天主閣
勾欄廻廊付望楼型天主・3層4階建 延773.01㎡
- 芸能文化館(書院御殿)
芸能の間、黒木書院 延331.71㎡
- 清洲城広場と遊歩道
- 土堀と土蔵のある日本庭園 ● 駐車場



清洲城への道

〈交通アクセス〉

- 名 鉄 電 車：名古屋本線新清洲駅より徒歩15分
- J R 東 海：東海道本線清洲駅より徒歩15分
- 城 北 線：尾張星の宮駅より徒歩20分
- 名二環道路：清洲東インターより5分
- 名古屋高速：清須出口より5分

🅇 駐車場 🅇 駅からの順路 🅇 車利用の主要経路